

第3回 多様な学びの在り方検討部会での意見

1 定時制課程について

項目	意見	発言者
就労状況について	・もし、どうしても仕事しなければならないという事情を抱えているのであれば、そのような状況に置かれている生徒に配慮する必要がある。	小林委員
	・中学校卒業と同時に働く必要があって定時制高校を選んだという生徒はごく少数で、ほとんどは高校に入ってからアルバイトを探して働いているというのが実態だと思う。 ・働く理由としては、家庭の経済状況が厳しい生徒が多く、生活費として家庭に入れている生徒もいるし、自分が学校行事に参加する際の費用や学用品、日用品を買うためにアルバイトしなければならない生徒が多いと見ている。 ・就労状況に昼間と夜間でそれほど大きな差はない。	石川委員
高い才能を有する生徒	・発達障害もいろいろなタイプがあって、ある領域ではずば抜けた才能が有ったり、発達障害でなくとも非常に能力が優れていて、周りの学力とは全然方向が違う生徒もいるのかもしれない。今まで不応の生徒に焦点を当ててきたが、多様な学びの中で第3期県立高校将来構想にもあるような「高い才能を有する生徒」への対応（例えば「飛び級」）も考えても良いのではないか。	田端部会長
定時制での大学進学について	・多部制の高校から大学に進学した生徒について、もともと大学に進学したいと思って定時制高校に進学したのか、入学の動機について把握することは、今回の検討をしていく上では大事だと思う。	小林委員
	・義務教育段階や高校で学校に馴染めなかった生徒や、人間関係がうまくいかなかったことから入学又は転・編入した生徒がほとんどで、特に高い学力を持った生徒が大学進学を希望し成果を出したという場合が多いと思う。	石川委員
働きながら学ぶ生徒について	・就労状況でパートやアルバイトが多いのは、学校の始業時間との関係で、勤務時間や任せられる業務の内容から正社員として働くのは厳しいからではないか。 ・できれば、昼間に勉強した方が良く個人的には思う。働いた後に4、5時間勉強するのは、まだ子供とも言われる年齢の若い人にとって酷だと思う。 ・家庭の事情から働かなければならないという生徒がいるのは理解するが、夜間ではなく日中に勉強できる環境を作ってあげる方が良く思う。	片瀬委員

項目	意見	発言者
働きながら学ぶ生徒について	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に雇用していた社員は、高卒資格を得るために、勉強は将来のことを考えて仕方なくという感じで、どちらかという働くことに重きを置いていたと思う。 	片瀬委員
	<ul style="list-style-type: none"> ・社会では高校卒業というのが一つの資格のようになっていて、生徒の実体験として、実際に就労しようとしたときに高校卒業資格があると非常に幅が広がるという話を聞く。 ・一旦、中退して、ある程度、社会経験や就労体験をすることで学校で学んで高校卒業の資格を得るとことの重要性に気付いたという話を聞く。 	石川委員
生徒の支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・中学を卒業して3、4年は社会人になるための基礎力、発展力をつけさせるために高校教育があると思うので、家庭の経済状況を考慮しながら、学べる時間を保証してあげる方が良い。 ・定時制だから、通信制だからこういう生徒ということではなく、学校は生徒の将来についてどのように支援できるか情報発信すべきである。 	伊藤委員
利用しやすい学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内に定時制高校がない栗原地区で定時制進学率が低く、昼間と多部制がある石巻地区で定時制進学率が高い状況から、選びやすい学校または利用しやすい学校について、一定程度、ニーズがあると理解して良いのではないか。 	田端部会長
退学者について	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制課程で退学する主な理由は、卒業単位を取得する見通しが厳しくなって、生徒自身が諦めてしまう場合が多いように思う。 ・今は全日制に対する定時制という意識があり、経済的に苦しく働かなくてはならないというのも1つの理由であるが、人間関係も含めた学校生活に適應できなかったり、発達障害や外国籍で集団指導にはついていけないため、全日制には行けない、あるいは敬遠したいという生徒の受け皿としての面が大きくなっている。 ・多部制の単位制高校は、そういうニーズの生徒に応えるためにできたという面もあり、不登校で欠席日数が多かったり、入試の学力試験で点数が取れなくても入られるようにして、入りやすくはしてあるが、入学してから学業が振るわず、結果的に諦めてしまうという生徒がいるのも実際である。 ・定時制は、チャレンジし直す場として、大学進学も含めた進路目標を実現している生徒もいる一方で、うまくいかない生徒もいる。また、不登校経験者で環境が変わって不登校を克服した生徒もいれば、うまくいかなかったという生徒もいて、その割合は半々くらいである。 	石川委員
	<ul style="list-style-type: none"> 定時制というネーミングも含めて、イメージを変えていくことが大事であるが、入学した生徒が学びを続けていくにはどうすれば良いのか、ということも今回の検討のテーマである。 	田端部会長
定時制の工業科について	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県内の中小企業は技術者や技能者の確保が大変困難な状況で、企業内での技術伝承が滞っている状況にあるので、工業系の高校を卒業してくれるのはとてもありがたい。ただし、工業系の高校を卒業した生徒は大手に就職してしまって、中小企業はほとんど工業系の生徒は採用できないというのが現状である 	片瀬委員

2 多様な学びの在り方について

項目	意見	発言者
他課程併修について	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学びの在り方の方向性については、基本的にはこの方向性で良い。 ・定通併修について言うと、通信制高校の本校に対する協力校や併修校という連携の形が各県でとても増えていて、全国的にはクローズアップされている。 ・ICTの進歩に伴う遠隔授業が、通信制課程そのものの形や他課程との連携の形も変える。それをやると遠隔授業で本来、自分の学校にない科目を履修することもできるようになる。 ・全日制の充足率が下がって、定時制は一定、通信制は増加、というように全日制には行きたくない、行けないという生徒が増えてきていて、全日制から定時制、通信制へという流れが起きていると思う。 ・通信制課程との併修や協力校というような連携強化を主軸としていくことで「新しいタイプの学校」の形が見えてくるのではないかな。 	石川委員
横並び	<ul style="list-style-type: none"> ・「新しいタイプの学校」としては、どのような背景の在る生徒でも全日制と横並びで中学生が選択できるような学校を作っていただきたい。 ・勉強が苦手な生徒だけではなく、逆にそれなりの学力を有しているが、発達障害など何かのきっかけで不登校になった生徒でも、そこで学んで将来の夢が叶えられるようなシステムがあれば良い。 ・働きながら学ぶこと、不登校のこと、発達障害のこと、学力のことなど、生徒の実態を考慮して、定時制が相応しいのか、通信制が相応しいのか、新しいタイプの学校が相応しいのか、検討すべきである。 	小林委員
設置形態について	<ul style="list-style-type: none"> ・横並びのイメージには、社会的な眼差しをどう変えていくのかということも関係してくる。 ・新設となると生徒が新しい学校ということで見てもらえるという点が大い。 ・今回の手法は、既存の学校でも何年も取り組んで試しているものもあり、行き詰まっている部分もあるので、今の体制でさらに発展、充実させるのは難しい面もあり、新しい形で立ち上げた方がやりやすいと思う。 	田端部会長
他校他学科との連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・他県では工業高校に併設されている定時制課程が普通科であるという場合も多く、少ないながらも専門学科の教員が配置されていることもあり、科目選択のバリエーションを広げる意味でそのような形態も考えてもらいたい。 ・経済的な理由で教育にも格差が広がってしまっている方向にあるところを、公立高校で負のスパイラルに陥らないような支援ができていくと良い。 	石川委員 田端部会長
発達障害	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の生徒は、人と関わりたくないというわけではなく、関わろうとしても関わり方が学べてなくて、関わってしまうとトラブルになるというケースもある。学校という場があることでそこに通って人と関わる練習をすることにもなるので、色々な形態を念頭に置いて学習環境の充実を柔軟に考えていただきたい。 	田端部会長